

ひろしま (1953)

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 日本

色彩 B&W

時間 104分

初公開日 1953/10/07

公開情報 北星

【解説】

長田新の『原爆の子』を八木保太郎が脚色し関川秀雄が監督した反戦映画。8万人を越す広島市民がエキストラとして参加し、原爆投下直後の広島を再現した。ベルリン国際映画祭で長編劇映画賞を受賞した。

広島にある高校。北川が受け持つ三年生のクラスで、生徒の大庭みち子が鼻血を出して倒れた。それは原爆による白血病が原因だった。このクラスでは、実に三分の一の生徒が被爆者だったのだ。あの日、ゆき子の姉は疎開作業中に被爆し、川の中で絶命した。遠藤幸夫の父親は、建物の下敷きになり炎に包まれた妻を助けることができなかった。原爆投下から七十五年は草木が生えないといわれた広島に大根の芽が出たとき、人々はその芽に希望を見いだしていた。

【クレジット】

監督 関川秀雄

製作 菊地武雄

伊藤武郎

原作 長田新

脚本 八木保太郎

撮影 中尾駿一郎 Shunichiro Nakao

浦島進

編集 河野秋和

音楽 伊福部昭

出演 岡田英次 Eiji Okada

原保美

加藤嘉

山田五十鈴

月丘夢路

岸旗江

利根はる恵

神田隆

薄田研二

三島雅夫